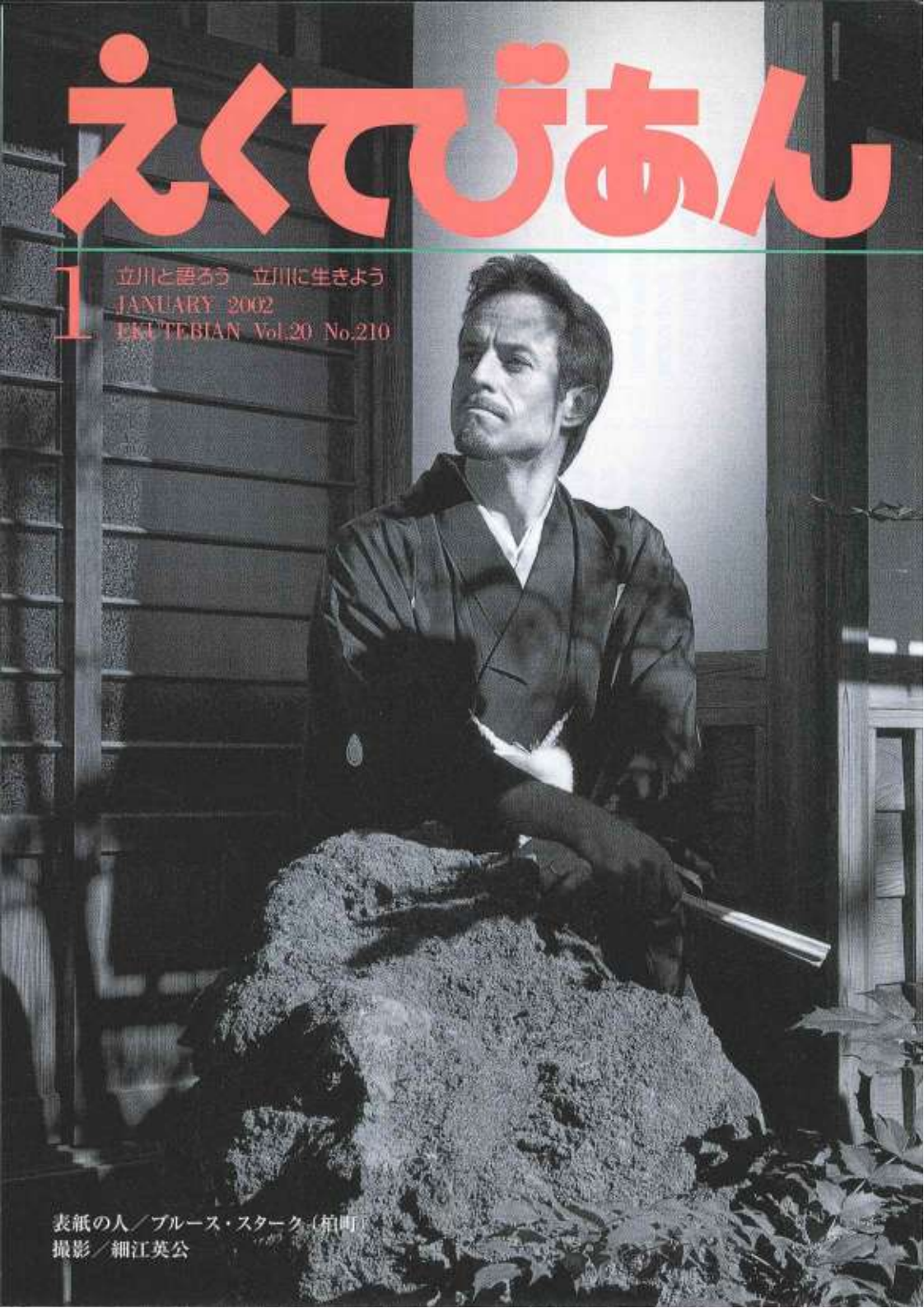
えくてびあん

1

立川と語ろう　立川に生きよう

JANUARY 2002
EKUTEBIAN Vol.20 No.210

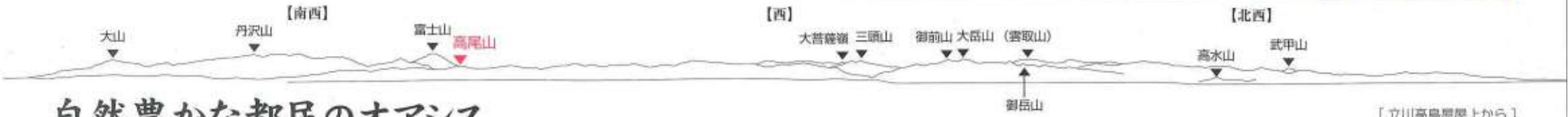


表紙の人／ブルース・スターク（柏町）
撮影／細江英公

立川から見える山［最終回］

高尾山（599m）

案内人　守屋龍男



［立川高島屋屋上から］

自然豊かな都民のオアシス

この連載の最後を飾る山として、皆さん一度は登ったことのある身近な山、高尾山（たかおさん）に登場してもらおう。低山のわりに展望も良く、動植物が多く自然豊かな山である。特に植物では、この山で発見されタカオの名が付いたものが10種類はある。さらに暖地には珍しいブナやイヌブナの林も残っている。

自然保護の活動も盛んで、今は全国の山々で行われているゴミの持ち帰り運動も高尾山から始まったという。

登山道（自然観察道）がいくつも整備され、ケーブルやリフトもあって手軽に山頂を踏むことができるので、都民の奥庭やオアシスのような存在だ。登山者は年間300万人にも達し、1月（薬王院の初詣）、5月（新緑期）、11月（紅葉期）が特に多く、主な登山道は大にぎわいとなる。

立川からは富士山の手前右方にゆったりとした山容が見える。山頂付近には杉の巨木が10本ほど聳えているのが肉眼でも見られる。

21世紀最初のご来光を拝みに、本年元旦まだ暗いうちから登り始めた。ケーブル山頂駅付近の霞台からよく見えるので、そこに急ぐ。もう大勢の人たちが集まっていた。底冷えのする寒気の中でじっと待っていると、漆黒の空が次第に紫色のベールに包まれ始め、やがて赤紫色や赤銅色やオレンジ色のライトに照らされたように明るくなった。まもなく雲海の上に深紅の太陽が姿を出した。新世紀の幕開けである。大勢の人が声もなく荘厳な情景を眺めている。やがて、どこからともなく拍手がわき起こった。空気がきれいで自然環境の良いこの山域で迎えるご来光はことさら素晴らしい。子孫に残したい貴重な山である。

［行程］

ＪＲ立川駅＝中央線20分＝高尾駅乗り換え＝3分＝京王線高尾山口駅＝5分＝ケーブル・リフト8分＝山頂駅－1時間－高尾山頂・下山は往路を戻る（歩程　約2時間）。

※別のコース

① 高尾山頂から奥高尾（城山、景信山、陣馬山）を経て陣馬高原下バス停まで（歩程　約6時間）。

② 高尾山頂から大垂水峠経由南高尾山稜を登り高尾山口駅まで（歩程　約5時間）などコースは数多くある。

荘厳な初日の出を拝み薬王院に詣でる。元日の高尾山はまだ暗いうちから人、人の波が続く。

私と高尾山

昭和48年の元旦、柏町の自宅を午前0時頃出発し、およそ30キロの道を歩いて高尾山に登る会を始め、以来「寒さと、眠さと、つらさ」に耐えて25年間連続して初詣をしました。完歩してご来光を拝んだ達成感は忘れられません。

豊泉喜一さん（柏町）

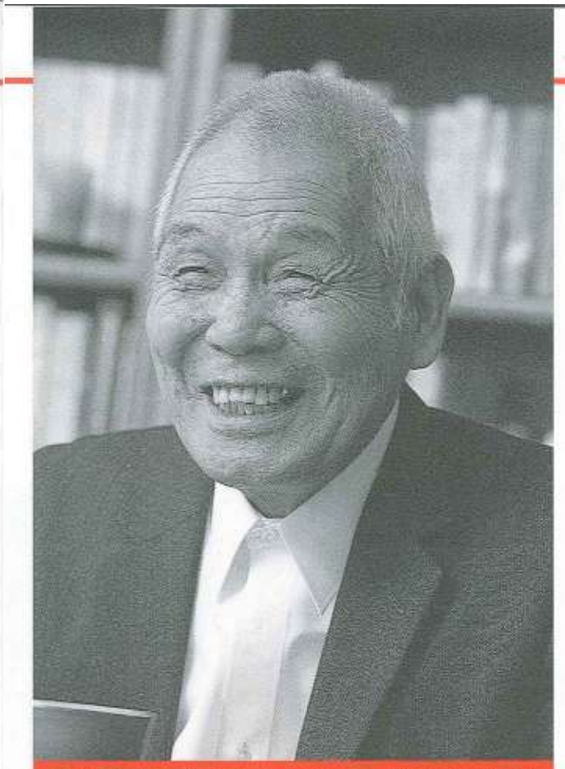
●連載を終えるに当たって

立川から見える山々は北の日光連山や赤城山を含め優に100座を超える。多摩川の土手から遠望する冬の陽に輝いて累々と広がる白銀の山並み、夕焼けの茜色の残照に間もなく消え去ろうとしている山々のシルエット。それはいまや故郷ともなった立川の美しい光景として心に刻まれている。立川から見える山々の良さを十分に表現できなかったことをお詫びしつつ、1年間のご愛読を感謝申し上げる次第である。　［守屋龍男］

ホンネde語ろう

齢82にして高校三年生 ただいま青春真っ只中

都立立川高校三年 原田義道さん



■原田義道（はらだよしみち）／大正8年生まれ。現在までに曾孫が7人いるという原田さんは、御齢82歳にしてなんと現役の「高校生」。都立立川高校定時制に通う高校3年生である。岐阜県出身。尋常小学校を卒業後、家業を手伝う中で昭和14年に出征。旧満州にて軍隊生活を送る。終戦後は建築関係の仕事に従事。76歳で引退後、生来の向学心から一念発起し八王子の夜間中学に入学。そして平成10年、立川高校に進学。現在「孫より若い」同級生との学園生活を謳歌している驚異の82歳。
■立井啓介（たていけいすけ）／本誌編集人。

啓介　若いなあ。高齢者の高校生がいるっていうのは聞いたことがあるけれども、へえ、原田さんがねえ。ところで、お生まれは何年ですか。

原田　一九一九年だから大正八年、満で八十二歳になります。

啓介　原田さんくらいの方だと、皆さんご苦労されていると思うんですけれども、こう云っちゃ失礼ですが、原田さんを見てると苦労が顔に出てない（笑）。活き活きしちゃってますものねえ。

原田　ええ（笑）、まあそれなりにいろいろあったけど、そうねえ、苦労ってことを自分で感じたことはないねえ。

啓介　きっと、その時その時を楽しんじゃうタイプなんじゃないですか。

原田　飛び込んでいっちゃうからね、私の場合。一度思い立ったらクヨクヨしないで、自分からのめり込んじゃうんだよね。どうもそういう性格だな、私は。

啓介　原田さんの少年時代は、まだ尋常小学校の時代でしょ？

原田　そうそう。私は岐阜の生まれなんだけれども、小学校を出て、親父が材木の売買みたいな仕事をしてたんでそれを手伝ってたんですよ。

啓介　中学には進まなかった？

原田　私はね、子供の時分から向学心みたいなものはあったんですよ。でも家がラクな生活じゃなかったから行けなかったんだね。それに私らの頃は、中学校に行く奴なんてほんの少しでしたよ。

啓介　ああ、そういう時代だった。みんな家業を手伝ったり、他所に奉公に出たりと。

原田　そう、クラスで二、三人でしたよ、中学に行く人は。

啓介　どんな青春時代を過ごされたんでしょう。もっとも、原田さんの場合は、いまでも青春まっただ中でしょうけれども。

原田　そうね、私らはやっぱり戦争だね。昭和十四年に召集されて兵隊に行きました。中国、旧の満州に渡って、ホクシンという所からサイナンって所の方まで、部隊であちこち行きましてね。それで昭和十八年に満期で一度帰ってくるんです。それが半年ぐらい経ってまた召集が来ちゃって、それで終戦までね。

啓介　終戦はどこでむかえたんですか。

原田　八丈島にいたんです。私は部隊で経理の仕事を任されてたんだけど、それの後始末をやってて、故郷に戻れたのが昭和二十年の十二月だったかな。

啓介　戦争が終わって無事に戻れた時はどんなお気持ちでしたか。

原田　当時は云っちゃいけないことだったけど、まあ、やれやれって感じだったよねえ。みんな大変な時代でしたよ。食事なんかは兵隊に行ってた時の方がマシだったものね。

啓介　まあ、日本人全員が難民みたいなものでしたからね。で、故郷に戻られて。

原田　そう、親父の後を受けて材木の仕事をしたりとか。とにかく食べなきゃいけないんで、いろいろやりました。で、昭和二十五年頃だったかな、紙幣の切替があったでしょう。そのぐらいに建築というか、そういう関係の仕事をするようになったんです。

啓介　東京へはいつ頃出てこられたんですか。

原田　昭和三十二年ですか。その頃は日本中が区画整理で、道路をどんどん作っている頃でね。私が入った会社は「引き屋」って云われる仕事をやってたんですよね。

啓介　引き屋、ですか？

原田　道路を拡げる時にね、ビルや建物を移さなきゃいけないでしょ。それをそっくりそのまま移動するのが引き屋っていうんですよ。そんな関係の仕事をやってでね、いくつか会社は変わったんですけど、それを七十六までやってました。

啓介　ほう、七十六歳っていったらつい数年前まで働いてらしたんですか。ちょっと伺いますけど、原田さん、どこか身体の調子で悪いところってないんですか。

原田　全然ない。電車とか自動車に乗るのが苦手なくらいで、あとは全く健康ですねえ。

啓介　いやあ、御顔もツヤツヤされてますものねえ。で、その後、学校に行かれるわけですけれども、何かきっかけがあったんですか。

原田　私、七十六で仕事を辞めるちょっと前から、昼間の仕事と掛け持ちで近所のスーパーの青果部に勤めてたんですよ。

啓介　じゃ昼間働いて、夕方からスーパー勤務。凄いな、それ。

原田　暇だったもんだからね（笑）。そこのアルバイト仲間の女の子たちが「原田さん、原田さん」って慕ってくれるようになったんだね。お互いの誕生日をお祝いし合ったりしてね。それでだんだん輪が広がって、若い子たちと交流を持つようになったんですよ。

啓介　お、どうやら原田さんの若さの秘訣はその辺にありそうだな（笑）。

原田　その中の一人の子が「原田さん、勉強したいって云ってたでしょ、私が調べてあげるよ」って、八王子の夜間中学を探してくれたんですよ。それで手続きをして、七十六から三年間、まず中学に通ったんです。

啓介　ああ、まず中学に通って、それで三年前から高校生と。そうするとやっぱり高校受験もされたんですか。

原田　ええ、しましたよ。今の子たちの試験は難しいねえ（笑）。

啓介　高校っていったら、科目も多いし、文科系から理数系まで相当に頭脳が柔らかくないと出来ない。受験科目は何だったんですか。

原田　英語、数学、あと何だったっけなあ……。あ、国語だ。三科目。普通科は五科目だけど、私は夜（定時制）だから三科目だったね。

啓介　で、実際高校生になってみてどうですか。授業は面白いですか。

原田　いやあ、面白いねえ。学校で教えてくれることってのは、自分がしてきた経験とはまた別のことでしょ。なるほどなあって思ってねえ。授業を聴くのは楽しいですよ。

啓介　もちろん教師は、原田さんよりずっと若い方ばかりでしょ。やりづらそうだなあ（笑）。

原田　出欠をとる時に私んとこだけ「さん」付けだったりしてね（笑）。でも最近はもうお互いに慣れてきました。あと、同級生から相談事を受けたりすることも多いねえ。みんな孫みたいな若い子たちばっかりだから。

啓介　原田さんが人生上の先生になってるんだ。生徒でもありながら、PTAもやっている。まわりの生徒たちも励まされるだろうなあ、その気力じゃ。でもお話を伺ってると、学ぼうという意欲もさることながら、やっぱり若い子たちとの交流が元気の源なんでしょうね。

原田　私ね、老人会なんて参加したことないんですよ。

啓介　老人とはつきあわない（笑）。いつも若者の中にいて、その精気をあびている。これ、若さの秘訣かも知れませんね。最近、老人の同窓会がはやっているようですけど、老いを舐めあってるきらいがある。

原田　市役所からいろいろ案内は来るんだけど、一度も出たことないです。年寄りはグチが多くなるでしょ。集まるとどうしてもそういう話になっちゃう、あれが嫌なんだよねえ（笑）。

啓介　でもね原田さん、人間は年をとってくると、どうしても「あれも出来ない、これも出来ない」って自分の可能性をどんどん縮めちゃうでしょ。原田さんはその逆を行ってますよね。ご自分でも幸せなことだと思いませんか。

原田　そうねえ。私は無神論者で神や仏ってのはよく分かんないんだけど、ただお袋だけには感謝してるんですよ。全然クヨクヨしない、肝っ玉の座った女でねえ。一度決めたら最後まで貫き通すってことを教えてくれたのがお袋ですから。たぶん、その影響が強いんじゃないかなと思ってるんですよ。

啓介　信条みたいなものってありますか。

原田　う～ん、やっぱり「努力」って言葉は好きだねえ。努力して、最後までやり抜く。そうじゃなきゃ意味がない。

啓介　八十二歳の人に「将来」のことを聞くというのもナンですけど、卒業したあとはどうするんですか。まさか、大学へ行くなんて考えてないでしょうねえ。

原田　ええ（笑）。今、進学の係の先生と相談してるんですよ。やっぱり夜間の大学を考えてるんだけどね。

啓介　え？　ほんとに大学へ行く気なんだ。こうなるともう、向学心なんて超えてますね。世の中、少子化で老人介護の問題であふれてますが、原田さんは介護する側にまわるんじゃないかなあ。それに若い人でも、最近は不景気面してる人がたくさんいる。

原田　クヨクヨしててもしょうがないんだよねえ。

諸町

和菓子・甘味処	甘泉堂	曙町1-14-12 522-4305
不動産	大晋商事	曙町1-23-9 525-3110
蕎麦懐石	無庵	曙町1-28-5 524-0512
ビストロ	シェ・タスケ	曙町1-28-14 527-5959
Cut Studio	SOFIA	曙町1-30-21 528-3241
三田花店	ルミネ立川店	曙町2-1-1-1F 527-5587
KIRIN COFFEE	ルミネ店	曙町2-1-1-1F 527-2322
ルミネ立川店	2F受付	曙町2-1-1-2F 527-1411
オリオン書房	ルミネ立川店	曙町2-1-1-7F 527-2311
印章	印徳	ルミネ立川店 曙町2-1-1-7F 527-1260
朝日カルチャーセンター	立川	曙町2-1-1-9F 527-6511
東京赤十字血液センター		曙町2-1-1-9F 527-1140
和生菓子製造直売	日の出屋	本店 曙町2-2-18 522-3308
オリオン書房	第一デパート店	曙町2-2-25-3F 523-3311
第一勧業銀行	立川支店	曙町2-4-5 522-5151
富士銀行	立川支店	曙町2-4-6 524-3121
お菓子の家	エミリーフローゲ	本店 曙町2-5-1-1F 527-1138
キャフェ	クリムト	曙町2-5-1-2F 526-3030
三井住友銀行	立川支店	曙町2-6-11 522-2151
Italian Cuisine	サヴィニ	曙町2-7-10 525-1662

えくてびあんの輪
人があって、街があります。
あなたがあって、立川があります。
そこにちょっとだけ、えくてびあん！
リストのお店にはいつでも、えくてびあん！

今月は曙町のお店です。

曙町

Art & Caffee Room	新紀元	曙町2-7-21-4F 528-6952
多摩中央信用金庫		本店 曙町2-8-28 526-1111
三上鰹節店		曙町2-8-30 522-3259
旬彩懐石	若草茶屋	曙町2-8-30 526-0010
フロム中武	1F受付	曙町2-11-2-1F 524-7111
輸入文具	ホワイトハウス	曙町2-11-2-4F 525-8558
ステンドグラス	ぱさーじゅ	曙町2-11-2-4F 522-1941
スパゲティー専門店	はしや	曙町2-11-2-4F 528-2338
立川リージェントホテル		曙町2-11-7-2F 522-1133
ビックカメラ	立川店	曙町2-12-2 548-1111
Wine & Dining	るもん	曙町2-12-13 527-3022
ケンタッキーフライドチキン	立川店	曙町2-12-16 528-2636
東京三菱銀行	立川支店	曙町2-13-3 5244121
カフェ	アバン	曙町2-17-15-2F 527-4479
トポス	立川店	曙町2-18-18 525-0331
三井石油	フロンティア立川	曙町2-19-9 527-3943
渓流魚菜料理	一竿	曙町2-22-23-B1 527-3640
手打ちそば	閑	曙町2-25-3 525-1400
串やきと牛たんの店	JEAN	曙町2-32-14 529-6210
三田花店	立川高島屋店	曙町2-39-3-1F 526-4187

嗚呼、懐かしのアメ車時代

高木紀男さんの「戦後の立川カーウォッチング」

アメリカとアメリカ人が輝いていた時代があった
将校が颯爽と街を歩いていた。どこかに「文化」が薫ったクラブで
江利チエミが、そしてフランク永井が歌った
街にアメリカ車が走る、仰ぎ見るおもいだった
そして、日本人はそこに「憧れ」のまなざしを送った
高木紀男さんも、その一人。だが、並の若者ではなかった
走る車を追いかけ、写真機に収めることに熱中して歴史の一点を捕らえた
高木さん、立川高校に通っていた頃若かった、そして「時代」もまた。

Old American Car

高木さんが所有する
カタログ・雑誌類の数々。
自動車文化を語る上でも
貴重な第一級資料。

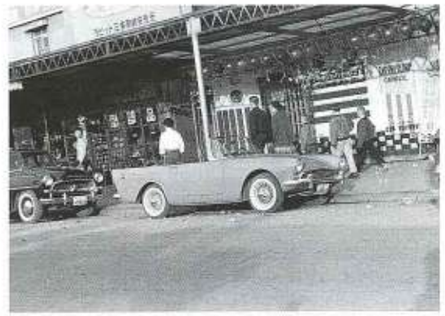
●高木紀男（たかぎのりお）／昭和16年、立川市曙町生まれ。
現在、日野市で南科医を開業する高木さんは、幼い頃から自動車の魅力にとりつかれ、
特に立川高校在籍時をはさんだ約10年間、立川駅北口周辺、米軍立川基地周辺を行来する欧米車の姿を多く撮影。
平成13年9月、その集大成ともいえる写真集『戦後の立川カーウォッチング』（けやき出版）を上梓。
全国のカー・マニアに多くの反響を呼んでいる。本業の傍ら、自動車専門誌への原稿執筆なども行っている。

※写真解説：高木紀男

'51～2 ハドソン（昭和37年3月）
北口駅前、現在のタクシー乗り場付近。
左手奥の白い塔は北口大通り商店会の案内塔。
上部に丸い時計が見える。その後ろは「日本相互銀行」のビル。
車のバックの「浪花屋」の上方"大坂館"の看板は現在も残っている。

'49 デソート（昭和37年頃）
北口大通り東側。右手隅には懐かしい郵便ポスト。
その脇をお揃いの縦縞のシャツを着た子供連れの夫婦が見える。
夏場は下駄履きの人が多かった。左手の53ビュイックの後方の天婦羅店
「登喜和」の場所は、以前は洋装店であった。

'50 シボレー フリートライン（昭和37年頃）
北口大通りと緑川が交差する曙橋の近く。
後ろの洋装店「ふどうや」は現在も同じ場所で同じ商いをしている。
反対側には三上靴飾店、若草洋装店が見える。手前の半分だけ見える車は
'60年型シボレー、後ろのスバル360は私の乗って来た車。
この頃はまだ市内道路のどこにでも駐車出来たのでとても便利な道具であった。



サンビーム アルパイン（昭和35年頃）
北口大通り「クラブ・ニューヨーカー」の前。店前を親子連れの
アメリカ人が歩いている。男の子3人は興味津々と店の方を見ている。
左隣の日産自動車の代理店「川口商店」の前に、
いつもどういうわけかこの黒い初代クラウンデラックスが駐車していた。
メインストリートなのに道路脇には小石がごろごろしている。

'56 オールズモビル 98（昭和37年頃）
被爆されて間もない頃の緑川駐車場の西端。後手には「ルーテル教会」の
全景が見える。左手には小さな飲み屋が何軒も並んでいる。
オールズの隣には"街のヘリコプター"ダイハツミゼット。
画面右端には屋台のラーメン屋と思しきリヤカーが置かれている。

'63 フォード ファルコン（昭和35年頃）
フィンカム前通り「高松靴店」前。34年頃に撮った写真には
看板に横文字の案内も書かれていたが、殆ど消えかかっている。
後手には立川日活や名画座等の映画の案内板がいくつか立てられているが、
映画館の全盛期はちょうどこの頃であった。
オープンカーが幌を下げて街中に駐車していることはあまりなかった。

表紙の人 ブルース・スタークさん（柏町）

作曲家、ピアニスト、アレンジャーとして、いまや世界的な活躍をしている立川人。

南カリフォルニアに生まれる。ジュリアード音楽院作曲科に学び修士号取得。コンポーザーズ・ギルド・コンクール第一位。ピアノ曲をはじめオーケストラ曲などを作曲、イギリス、中国、ヨーロッパ、アメリカなどでスターク作品が演奏されている。作曲家としての活動に加え、ピアニストとしてジャズとクラシックを背景に独特なスタイルでの演奏が高く評価されている。

（於・真澄寺／撮影・細江英公）

東風

歳があらたまる。不思議な感動があるものだ。たしかに世の中の変動は著しいが「元朝」の静寂な空気だけは失われていない。それにしても昨年の世界を震撼させた事件を思い起こしても、「進歩」しているのか「退歩」しているのか、わからないところまできてしまったような気がする◆暗い世相のなか、立川高校三年生の原田義道さんにお会いできたのは幸運であった。大きな元気をいただいたように思う。82歳になる原田さんだが、精神的な若さでは現代の若者も適わないのではないだろうか。奇しくも立川高校創立百年という記念すべき行事がおこなわれていた◆「青春記」は北 杜夫氏に限らず誰にでも、ある。記念行事に集まった立川高校のOBたちの顔は皆、輝いていた。人生に疲れた時、「わが青春記」を読み直してみるのは、疲労回復の特効薬ではないだろうか◆たしかに「アメリカ文化」にある羨望のまなざしを送った時代があった。立川が基地の土地としての後遺症は今日でもすっかり拭われているわけではないが、瓦礫の戦後日本に一石を投じたのは先進国アメリカの「光と影」ではなかっただろうか。懐かしのアメリカ車を追った高木紀男さんもまた「青春記」か ◆えくてびあん　鷹ひとつ舞ふ　涼気かな

【第三次えくてびあん同人】
編　集　大久保清志／小林康史／杉山清純／芳賀敏博／山田五郎
デザイン　池田隆男／AMNET DF
写　真　五来孝平／中村 伸／長坂洋平

えくてびあん© 1月号
第20巻　通巻210号
平成14年1月1日発行
発　行　えくてびあん編集工房
〒190-0012
東京都立川市曙町2-17-5 杉田ビル3F
TEL. 042-528-0082　FAX. 042-528-0065
編集人　立井啓介
発行人　瀬尾勲三
印　刷　(株)大廣社

無断転載を禁じます。

Topics トピックス

学び舎への想いさらに深く
都立立川高校が創立百周年

東京都立立川高校は1901年（明治34年）、東京府立第弐中学校として開校。三多摩に初めての高等教育機関である中等学校が立川に設置されるとあって、街をあげてこの誘致を歓迎した。立川が発展した背景として、甲武鉄道（現JR中央線）の開通、立川飛行場の開設と併せ、東京府立第二中学校（現立川高校）の設置というのが大きな要素であろう。学舎は三多摩のみならず、周辺の俊英の集うところとなり、「三多摩の村長養成所」とまで称された時代があった。昭和13年には開校当時より木造だった校舎が鉄筋コンクリートの6階の塔を持つモダンな校舎に改築された。この屋上には当時としては珍しい天体望遠鏡が設置され、全館スチーム暖房、校内電話網が完備されるなど、東洋一の校舎が完成。その後、平成4年には近代的な新しい校舎が竣工され、現在に至っている。

開校当時の正門

紫芳会主催による記念式典

立川高校は各界の著名人を多く排出している。卒業生では現立川市長の青木 久氏をはじめ多摩地区現市長は9名にものぼり、中でも高校15期の4名の同期生市長の誕生は全国でも希有のものと話題を呼んでいる。

去る、11月17日には、アミューたちかわ大ホールにて創立100周年記念式典が行われ、在校生を中心に大勢の関係者が列席し、母校の誕生と発展を祝した。12月9日、同窓会『紫芳会』主催により立川グランドホテルにて開かれた記念式典、祝賀会には1,000名を越える同窓生が参集、懐かしい顔が一同に会した。多感な年頃をともに過ごした竹馬の友同士にしか共有できない濃厚な時間が流れ、祝宴は大盛況のうちに幕を閉じた。紫芳会は開校の6年後に発足、会員は現在18,000名を数える。また、12月11日～16日には立川市女性総合センター・アイム1Fギャラリーにおいて PTA主催による記念写真展が行われ、校舎の変遷、校内で学ぶ児童の姿、紙紐で綴じられた教科書など、歴史的にも貴重な写真や品々が披露された。

真味百撰 57

鮨処 舎利とねた

●若葉町3-43-2 ●537-4120
●平日 11:00～21:30(15:00～17:00準備中)
日曜祭日 11:00～21:00●木曜日定休
●カウンター11席、テーブル12席、奥座敷20席
●Pあり

鮨屋はシャリとネタが勝負
我が儘な注文、大歓迎

一寸風変わりな店名が示すように、「シャリ」と「ネタ」を第一に考えているお店。米は新潟産のコシヒカリのみ、築地より毎日直送される採れたての鮮魚を提供している。

ご主人の倉持勇男さんは実家の乾物屋を継いでいたのだが、25歳のとき一念発起して鮨修業の道に入った。職人としては遅すぎるスタートだった。当然、兄弟子は自分よりも年下の人ばかり。「このとき、頭を下げられなかったら終わりだったね」と倉持さんは云う。その甲斐あって、江戸前寿司の基本をみっちりと身に付けた。実際、すべての魚にひと仕事加えることにより素材の味を最大限に引き出す技は見事。肉厚のネタとシャリが織りなす絶妙な味、舌触りを存分に堪能できる。

ここでの注文は思いっきりワガママで良い。倉持さんがどんな注文にも即座に対応してくれる。店の壁面には値段札がかかっておらず、法外な値段を請求されるのではないかという危機感があるが時価ではない、ちゃんと値段が定められているので安心あれ。はじめに予算を告げておまかせで握ってもらうのが賢い注文の仕方。オススメは「特上ずし」。値段以上の満足が得られるだろう。

特上ずし（写真）2,600円
上ずし 1,800円
鯖棒寿司　2,300円（秋・冬のみ）

ゴロさんの独断毒語 30

カレンダー

日々に濃淡があることは体験上、誰でもが知っていることです。今日は充実した素晴らしい一日であった、今日は退屈で時間が空疎のうちに過ぎてしまった。

アンニュイという言葉がありますが、あれを空白の時間と感受するのは、まだ「大人」に成りきっていないのだと聞いたことがあります。自分でそういう時間を持つと、なるほど、精神の奥での充実感は深いものがあるものです。

今日は短かった、昨日は怠惰な時間が過ぎてゆくだけで妙に長く感じた。これでは社会的活動が出来ないのでカレンダーというものが発明されたのでしょう。全国、いや出来れば全世界を一定の基準のもとに統一したい。時間に関する個人の「濃度」はさて置いて、時間はカレンダー通りに進んでゆく。もっと小刻みにということから、手帖が最近は全盛で一日が時間割りになっている。分刻みの時間割りに支配されていることを忘れて、一日が黒々と埋まっているのを自慢している人。世はビジーネス・マンの時代であります。

それ程に熱心であるならば、カレンダーも手帖も歳晩を待たずに売り出したら成功するだろうと、業者は考えた。売れた。じゃ、十一月からでも人々は振り向くのではないか、これがまた、売れた。他社に負けてはいけないという焦りがあるから、十月でもいけるのではないかという目論見がこれまた当たり、いまや初秋のうちから店頭に並ぶ時代であります。生き急いでいるのかなあ。

イラスト：綾　幸子

日本には「花鳥風月」という美しい感覚があります。私は「虎落笛（もがりぶえ）」という言葉が大好きです。好き、というよりもどこか痛々しい。ものの表現は天然の推移に準えている。一月は「凍った雪の面の月」、四月は「柔らかく繊細な葉の月」。

日本にもかつては、一月が「睦月」、三月が「弥生」、十一月が「霜月」と季節感が表現されておりましたし、現在でも全くないわけではありませんが、所詮はお飾りでしょう。カレンダーも手帖も数字の羅列であります。

数字を追いかける。これは現代人の宿命なのでしょうか。何よりも大切なのは「効率」です。能率さえあがれば他は目を瞑ろうというわけです。

干し竿や垣根にあたってヒューヒュー鳴る北風。まるで笛のようです。単に北風というのとは深さが違う。こういう感覚がカレンダーで表現出来ないものだろうかと、いつも考えるのです。ある民族では季節を大きく夏と冬に分ける。月

「えくてびあん」から毎年、新年には「100年カレンダー」が発行されている。なんと百年分の歳月が一枚の紙に押し込まれていて、まさに数字の羅列。あれは現代人に対する強烈なアイロニーではないかと、私はひそかに睨んでいるのです。

（やまだごらう・詩人）

立川と多摩地域が
もっと楽しいホームページ
多摩てばこネット
http://www.tamatebako-net.ne.jp/
多摩てばこネット編集工房
〒190-0012 立川市曙町3-4-3 武藤ビル2F
tel 042-548-9606 fax 042-548-9609
e-mail message@tamatebako-net.ne.jp

常楽我浄
真如苑提供番組<じょうらくがじょう>
スカイパーフェクTV 216ch、マイ・テレビ 84ch
土　曜　午前9時～9時15分
午後7時15分～7時30分
再放送／火曜　午前9時～9時15分
午後7時45分～8時
放送時間は予告なく変更する場合がございます。
立川に育てられて六十五年
真如苑
柴崎町1-2-13 Tel.527-0111(代)

立川産の
朝採り野菜を
食卓へ
5月～9月　12：00～18：00
10月～2月　12：00～17：00
休日　日曜・祭日
JA東京みどり 幸町直売所
〒190-0002 立川市幸町1-14-1
Tel 042-536-2439

デジタルえほん
メモリーブックにどうぞ…
ミッキーやキティちゃんと一緒に…!!
あなたの写真と名前が絵本の中に入ります。
PLANNING・DESIGN・PROCESS・PRINTING
株式会社 大廣社 ☎042-527-1911
〒190-0022 東京都立川市錦町5-17-13
FAX.527-1949
E-mail dkosya@nifty.com

いつも、旅

型染版画家・田中 清の世界 ⑥

出雲の築地松は防風林です。関東では欅を防風林にしている所が多いように、です。私はいろいろな所を旅していて、日本海側が一番変化の少ない地方だと思っています。それは何といっても、あの豪雪によるのでしょう。人の習慣、風土に懐かしさが宿っています。豊かさとは何か。これは「過去」からも考えさせてくれるものがあります。

多摩の新景より
『鳩の巣渓谷』
（青梅市）

『出雲築地松』